

共同礼拝

2023年2月5日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜 匠米

前 奏

招 詞 詩 編 8編2, 3節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

エレミヤ書 23章16～17節 (旧1220)

マタイによる福音書12章33～37節(新23)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 20(1)

説 教 「つまらない言葉の責任」 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 501(1)

聖 餐 式

献 金

頌 栄 543

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

2月の祈り

主が共におられることに支えられて、この世界のこの時代に生かされている恵みを覚えることができるように。

主イエスの生涯を知り、真の人として苦しみを負われたことを思い起こし、御子の受苦によってもたらされた救いの信仰を確かなものとする事ができるように。

戦火が止み、平和がもたらされるように。痛みを負っている人々に慰めといたわりが与えられるように。

今日の祈り

涙の革袋を持っておられる神が、悲しみにある人々に寄り添いその涙をぬぐい、慰めを与えてくださるように。

主の体に与る聖餐の恵みが教会に連なる全ての人を結ぶものとなるように。

寒さ厳しい中であって、病を負い、弱っている人々が守られ、力づけられるように。

「つまらない言葉の責任」 高橋和人

マタイによる福音書 12:33~37

主イエスは聖霊への冒瀆は赦されないと厳しく語る。聖霊は赦しによる救いを実現される。赦されねばならないことを認めず拒否するものは、赦されることはない。自分を誇るのなら、赦しは必要にならない。

主は結ぶ実で分かるという。7:17でも「良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ」と言われた。ファリサイ派の本性を指摘する。安息日の規定の規定についての自分たちの正しさにこだわり、主イエ

スの業を悪霊の頭の力と断じていた。自分の正しさへの執着が主イエスを見えなくしている。その根は深い。結局は自分自身への執着だからだ。そこからは実りは生まれない。

主イエスは口から出る言葉を問われる。人の口からは心にあふれることが出てくる。人はどれだけ、自分以外のことを語ることができるだろうか。人を褒める言葉がいかに貧しいことか。うわさや悪口や裁きの言葉が自分を喜ばせる。愛がないからだ。

その一方で自分への言葉にはおびえている。どちらも人に根差した生き方だ。そこには、確かなものはない。

善い人は良いものを入れた倉から良いものを取り出す。それは恵みを知っているため。神が恵みとして与えられたことが何かを知っていれば、それを取り出せる。しかし、自分と自分の手にしたものが入っているならば、自分しかとりだせない。それは貧しいことだ。そしてつまらない。

エフェソ 4:29 には「聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉」を語るようにと言われる。人の徳を高める言葉だ。

つまらない言葉は「無益な」「軽率な」と訳される。一時自分を誇っても、はかない言葉だ。

神はその責任を問われる。自分の言葉によって義とされ、自分の言葉によって罪あるものとされる。愛のない、罪ある言葉しか持たず、赦される以外にないことをどれだけ切実なことになっているだろうか。

聖餐は見える神の言葉と言われる。主はその血と肉を与えられ無言の内に赦しと贖いを語られる。人を生かす揺るぎのない言葉だ。愛され、赦されているところから語りだすことができる。